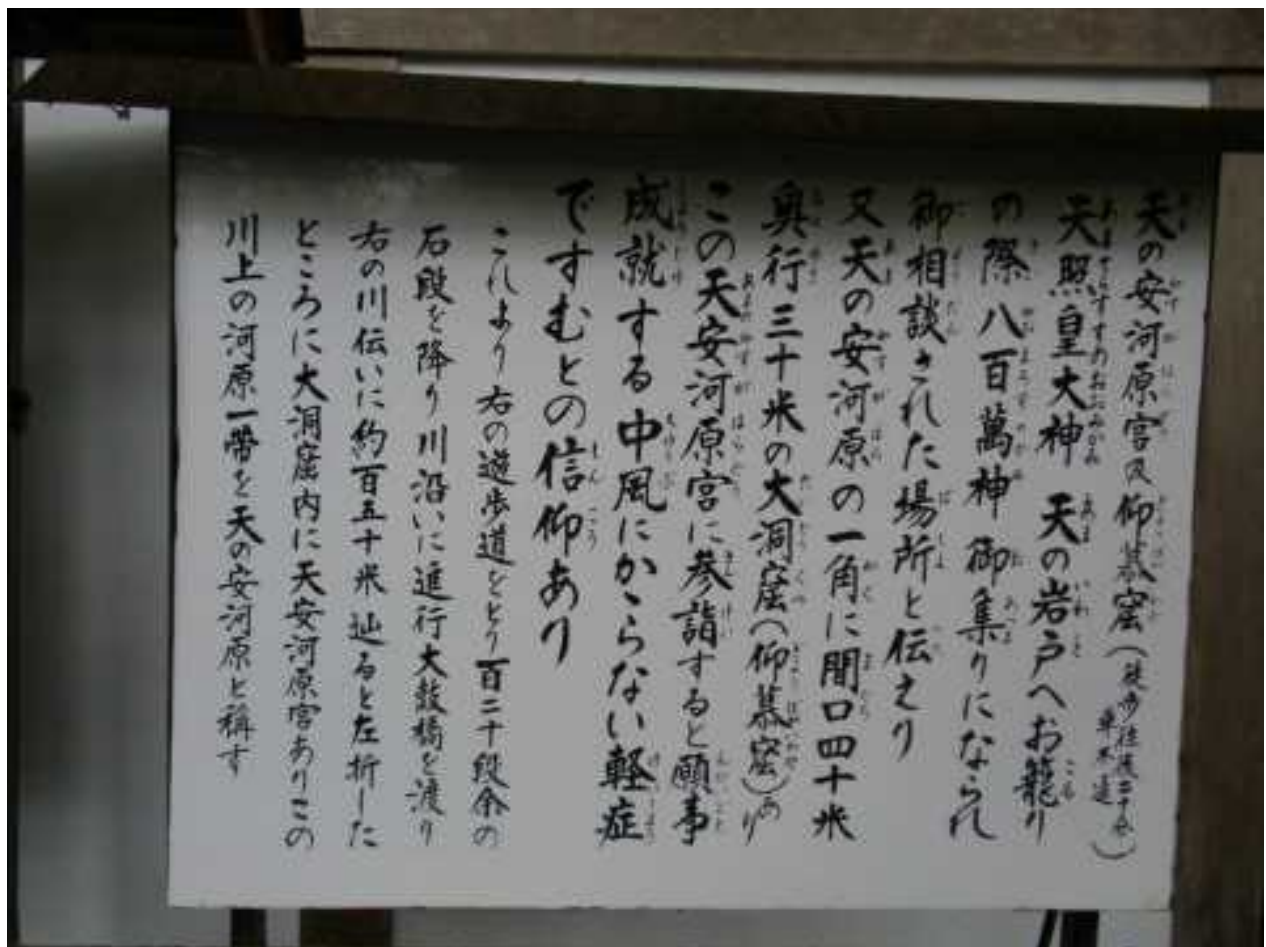


天安河原宮

御祭神 思兼神(おもいかねのかみ)
八百萬神(やおよろずのかみ)



天照皇大神、天岩戸へ御籠り遊ばれた時に、八百萬神は天安河原へ神集神議りになった事を古事記等に記してありますが、天岩戸神社より500メートル川上の此の天安河原は其の御相談の場所であると伝へます。此の河原の一角に「仰慕窟(ぎょうぼがいわや)」と称し間口40メートル、奥行30メートルの大洞窟があり、全国から願事がかなうとの信仰があります。



「ひむかがるたの栲」伝承編から

天の岩戸伝説

(宮崎公立大四年北澤重利
同大准教授・新井克彦記述)

高千穂発祥の神話

天の岩戸(アソイウト)伝説とは、古事記・日本書紀で日本民族の祖とされる太陽の女神天照大神(アマテラスオホミカミ)が天の岩戸に隠れ、世界が真暗になってしまったと言う神話です。天照大神の弟の須佐之尊命(スサノオミコト)は、いたずらで御殿に毒(フシ)をはりまいたり、水田を荒らしたりして、いました。当初は、大目に見て、天照大神でいたが、いたずらをきつかりに待女が死んでしまったことで、堪や堪や緒が切れて、天の岩戸に引きこもってしまいました。すると太陽がななくなり、世界は闇に包まれました。やがて大きな災害が発生しました。困った八百萬(ヤササミ)の神々は何とか天照大神を天の岩戸から出せようと相談し、岩戸の前で宴会を開き、その賑やかさで天照大神の気を引くことにしました。宴会が始まり、芸達者の天鈿女命(アメノウメコト)が岩戸の前で舞い踊ると、地響(チノリ)がするほど神々は手をたたき、辺りは一斉に笑いに包まれました。すると、雲の足、天照大神は外の様子に気がなって少し、天の岩戸を開けました。その時、どうも天手力男命(アマテカラヲヲコト)が天照大神の手をとって、岩戸の外へと連れ出しましたので、こうして世界に再び光がよみがえったと言う伝説です。

この、あまりにも有名な神話は、発祥が高千穂であることは意外に知られていません。

高千穂は、高千穂峽、神楽等の観光資源が豊富です。

現在、高千穂鉄道は存続の苦境に立っていますが、宮崎を代表する観光地としてひとつ注目と注目を浴びてほしいと思います。